

# 令和2年度 決算の概要

# 目次

---

◆ 会計処理の特徴 .....	1
◆ 償還準備金積立方式の仕組み .....	2
◆ 令和2年度決算の概要 .....	3
◆ 令和2年度損益計算書 .....	4
◆ 令和2年度貸借対照表 .....	5
◆ 借入金残高の推移 .....	6
◆ 通行台数・料金収入・供用延長の推移 .....	7
◆ 計画との比較 .....	8
◆ 令和2年度キャッシュフロー計算書 .....	9



# 会計処理の特徴

## 原則

- 当会社では、財政状態や経営成績を明らかにするため、企業会計原則に準じた会計処理(発生主義・複式簿記)を行っています。

## 特徴

- 広島高速道路の整備については、出資金・借入金で建設を行い、お客様から頂いた料金収入で借入金等を一定の期間内に償還する有料道路制度を活用しています。償還完了後の道路は、本来の道路管理者に引き渡します。
- 有料道路制度においては、借入金等の償還状況を会計処理において適切に把握することが重要で、道路への投下資金(借入金等)とその償還額を每期明らかにするため、「道路資産」については企業会計において一般的に採用されている減価償却費を計上していません。
- 借入金等の返済に充てた収支差(料金収入と管理費、利息等の費用の差)は、「償還準備金繰入」として費用に計上し、その累計額を「償還準備金」として貸借対照表の負債の部に計上しています。
- これにより、貸借対照表上で、資産の部に計上される「道路資産」と負債の部に計上される「償還準備金」とを対比することで、借入金の償還状況がわかりやすい仕組みになっています。



# 償還準備金積立方式の仕組み



# 令和2年度決算の概要

- ① 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、収益のうち道路料金収入<sup>※1</sup>は、前年度から17.1億円減少し、108.3億円と、前年度からは13.7%の減少となりました。  
なお、通行台数については、前年度から14.5%減となりました。
- ② 道路管理の費用である事業資産管理費は、計画的に実施しているETC設備更新費等の増により、前年度から8.6億円増加し、49.8億円となりました。  
借入金利息等の業務外費用は、借入金利率の低下により、前年度から2.0億円減少し、11.6億円となりました。
- ③ 今年度の収益111.2億円<sup>※2</sup>と費用65.1億円<sup>※3</sup>の差46.1億円は、償還準備金繰入として計上し、その累計額である償還準備金は、673.7億円となりました。
- ④ 令和2年度末の借入金の未償還残高は、前年度から7億円増加し、2,379億円となりました。
- ⑤ 償還計画については、料金収入の推移に加え、将来的な利息負担等も考慮して、長期的な視点で考える必要があることから、引き続き、利用状況や金利動向を注視し、対応を検討していきます。



※1 ETCマイレージ還元負担金等を含む。  
※2 受託業務収入及び業務外収益のうち償還準備積立金対象分を除く。  
※3 受託業務費を除く。

# 令和2年度損益計算書

(単位:百万円)

費用の部				
科目	金額			増減率 (%)
	令和2 事業年度	令和元 事業年度	差 額	
事業資産管理費	4,984	4,126	858	20.8
道路管理費	4,902	4,037	865	21.4
ETCマイレージ還元負担金等	82	89	△ 7	△7.9
一般管理費	359	358	1	0.3
一般管理費	255	255	0	0.0
減価償却費等	104	103	1	1.0
業務外費用	1,164	1,369	△ 205	△15.0
借入金利息	1,129	1,337	△ 208	△15.6
債券発行費償却等	35	31	4	12.9
受託業務費	48	259	△ 211	△81.5
小 計	6,555	6,111	444	7.3
引当金等繰入	4,890	7,652	△ 2,762	△36.1
償還準備金繰入	4,609	6,927	△ 2,318	△33.5
償還準備積立金繰入	281	725	△ 444	△61.2
合 計	11,445	13,763	△ 2,318	△16.8

収益の部				
科目	金額			増減率 (%)
	令和2 事業年度	令和元 事業年度	差 額	
業務収入	11,102	12,769	△ 1,667	△ 13.1
道路料金収入等	10,825	12,537	△ 1,712	△ 13.7
業務雑収入	276	231	45	19.5
業務外収益	296	736	△ 440	△ 59.8
受託業務収入	48	259	△ 211	△ 81.5
合 計	11,445	13,763	△ 2,318	△ 16.8



※ 係数毎に端数処理しているため、計において合致しないことがあります。  
 ※ 増減率は端数処理後の値で算出しています。

# 令和2年度貸借対照表

(単位:百万円)

資 産				
勘 定 科 目	金 額			増減率 (%)
	令和2 事業年度	令和元 事業年度	差額	
流 動 資 産	14,403	14,353	50	0.3
現金・預金外	14,403	14,353	50	0.3
固 定 資 産	397,513	392,786	4,727	1.2
事 業 資 産	304,279	304,279	0	0.0
道路建設仮勘定	92,559	87,783	4,776	5.4
有形固定資産外	675	723	△ 48	△ 6.6
繰 延 資 産	392	340	52	15.3
借入金取扱諸費外	392	340	52	15.3
資 産 合 計	412,307	407,479	4,828	1.2

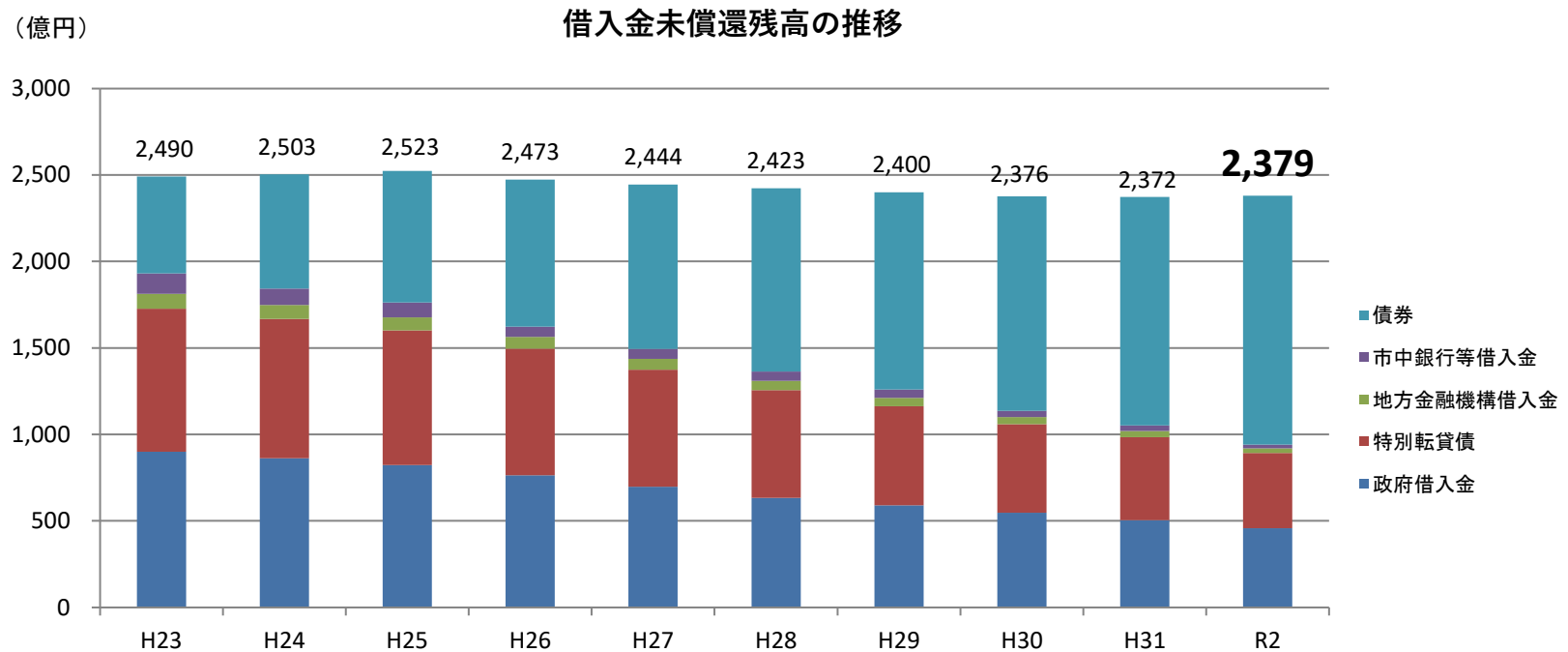
負 債 及 び 資 本				
勘 定 科 目	金 額			増減率 (%)
	令和2 事業年度	令和元 事業年度	差額	
流 動 負 債	31,240	34,179	△ 2,939	△ 8.6
1年内返済金外	31,240	34,179	△ 2,939	△ 8.6
固 定 負 債	214,053	212,373	1,680	0.8
広島高速道路債券	133,000	121,000	12,000	9.9
地方公共団体借入金	37,891	42,226	△ 4,335	△ 10.3
政 府 借 入 金	39,718	44,085	△ 4,367	△ 9.9
市中銀行等借入金等	3,135	4,773	△ 1,638	△ 34.3
退職給与引当金	215	192	23	12.0
ETCマイルージ引当金	30	32	△ 2	△ 6.3
資産見返補助金	64	64	0	0.0
特別法上の引当金等	80,253	75,363	4,890	6.5
償 還 準 備 金	67,371	62,762	4,609	7.3
償還準備積立金	12,882	12,600	282	2.2
(負 債 合 計)	325,546	321,915	3,631	1.1
基 本 金	86,627	85,430	1,197	1.4
地方公共団体出資金	86,627	85,430	1,197	1.4
剰 余 金	134	134	0	0.0
(資 本 合 計)	86,762	85,564	1,198	1.4
負債・資本合計	412,307	407,479	4,828	1.2



※ 係数毎に端数処理しているため、計において合致しないことがあります。  
 ※ 増減率は端数処理後の値で算出しています。

# 借入金残高の推移

借入金残高の状況は、建設事業の財源及び借換資金として259億円を新規借り入れし(債券、政府借入金等)、償還準備金等を財源に元金償還した結果、令和2年度末の借入金の未償還残高は令和元年度末に比べ7億円増加し、2,379億円となりました。



令和2年度末の借入金残高

前年度末	令和2年度借入額	計	償還額	令和2年度末
2,372億円	258億円	2,630億円	251億円	2,379億円



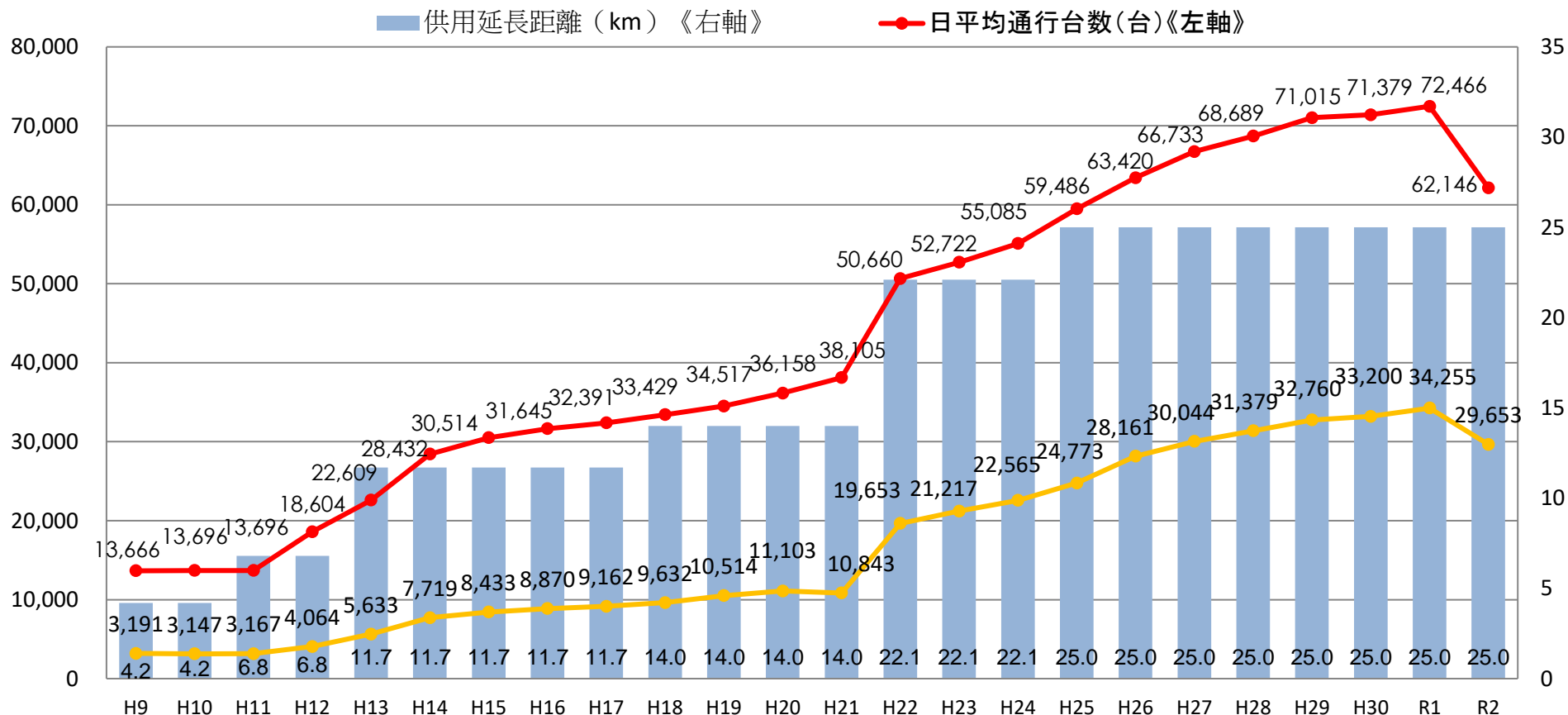


# 通行台数・料金収入・供用延長の推移

令和2年度

日平均通行台数 62,146台(14.2%減)、日平均料金収入 29,653千円(13.4%減)

- 平成22年度に広島高速2号線及び3号線Ⅱ期が供用されたことにより、1号線から3号線が連結されて以降、通行台数・料金収入ともに令和元年度まで増加してきましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、通行台数・料金収入ともに減少となりました。



# 計画との比較

(単位:百万円)

区 分		収 益 (A)	費 用		償還準備金繰入 (A-B)	営業係数 (B/A*100)	
			(B)	管 理 費			借入利息等
令和2年度	計画	13,264	4,955	3,984	971	8,309	37
	実績	11,116	6,507	5,343	1,164	4,609	59
累 計	計画	150,523	78,639	49,831	28,808	78,639	52
	実績	148,370	80,999	51,858	29,141	67,371	55
計 画 に 対 す る 実 績 の 比 率		98.6	103.0	104.1	101.2	85.7	—

○計画は、整備計画(令和2年1月国土交通大臣許可)の数値です。

○管理費は、事業資産管理費、一般管理費の合計です。

○営業係数は、100円の収益を得るために必要な費用を意味し、昨年度から13ポイント上昇しました。



# 令和2年度キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

	令和2年度 A	令和元年度 B	増減額 A - B		令和2年度 A	令和元年度 B	増減額 A - B
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>				<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>			
償還準備金繰入等	4,890	7,652	△2,762	有価証券の取得による支出	—	—	—
減価償却費	48	49	△1	有価証券の売却による収入	—	—	—
賞与引当金の増減額	0	0	0	事業資産の取得による支出	—	—	—
退職給付引当金の増減額	22	20	2	事業資産の売却による収入	—	—	—
E T Cマイレージ引当金の増減額	△2	0	△2	建設仮勘定の取得による支出	△8,485	△3,227	△5,258
債券発行費等償却額	32	30	2	固定資産の取得による支出	△1	△11	10
受取利息	—	0	—	固定資産の売却による収入	—	0	—
債券支払利息	568	677	△109	投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,485	△3,237	△5,248
借入金支払利息	562	661	△99	<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
未収金等の増減額	560	△729	1,289	短期借入による収入	—	—	—
棚卸資産の増減額	△653	△160	△493	短期借入の返済による支出	—	—	—
未払金等の増減額	1,718	△3	1,721	長期借入による収入	3,527	4,475	△948
その他	3	2	1	長期借入の返済による支出	△14,139	△13,388	△751
小計	7,748	8,198	△450	債券の発行による収入	23,000	22,000	1,000
利息の受取額	—	0	—	債券の償還による支出	△11,000	△14,000	3,000
債券利息の支払額	△575	△683	108	補助金の受入による収入	—	—	—
借入金利息の支払額	△568	△668	100	補助金の返還による支出	—	△69	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,605	6,847	△242	出資金の受入による収入	1,198	2,623	△1,425
				その他	△95	△91	△4
				財務活動によるキャッシュ・フロー	2,490	1,550	940
				<b>IV 現金及び現金同等物の増加額</b>	<b>610</b>	<b>5,160</b>	<b>△4,550</b>
				<b>V 現金及び現金同等物期首残高</b>	<b>11,062</b>	<b>5,902</b>	<b>5,160</b>
				<b>VI 現金及び現金同等物期末残高</b>	<b>11,672</b>	<b>11,062</b>	<b>610</b>

